

令和5年度

第1回進路説明会



江戸川区立葛西第二中学校

3年	組	番
氏名		

— 目 次 —

1. 進路を考えるにあたって	2
2. ご家庭で取り組んでいただきたいこと	4
3. 令和5年度 第3学年 進路年間計画	5
4. 中学校卒業後の進路先	
A 高等学校	6
課程、学年制と単位制	
A－1 都立高校	
A－2 私立高校	
A－3 国立高校	
B その他の学校	9
B－1 高等専門学校（高専）	
B－2 高等専修学校・各種学校	
B－3 通信制補習校（サポート校）	
B－4 特別支援学校高等部	
B－5 職業能力開発センター	
C 就職	10
5. 受験に関する基礎知識	11
6. 推薦希望者にのぞまれること	13
7. 本校の推薦受験基準	14
8. 昨年度の葛西第二中学校進学状況	15
9. 昨年度の都立・私立高等学校入試の状況	

◇参考資料 進路希望調査（見本）

1. 進路を考えるにあたって

進路を考えるうえでまず重要な姿勢は、自分が将来どのような人間になり、どのように生きていくかを考え、将来の見通しを立てながらその希望に向かって毎日努力するということです。

「進路」＝「進学・受験」ではありません。

高校は「みんなが行くから」、「親が言うからなんとなく行く」というものではないはずです。3学年140名の進路は、140通りの違ったものなのです。自分自身の将来を見据えて、よく考えて結論を見いだしてください。進路が決定するまで、本人だけではなく、保護者の方も心配なことが多くあるでしょう。しかし、本人がやるべきことを一つ一つしっかりやっていけば、希望する進路が実現できるはずです。進路を考えるにあたっては、次の点に留意してください。

進路選択について

●長期的な視点で考えよう

中学校卒業後は、それぞれが別の道に進みます。大切なことは、自分の将来の見通しを持ちながら、いま何をすべきかをよく考えて努力することです。

●毎日の生活や学習の姿勢が大切

自身の進路の選択肢、可能性を広げるために大切なことは、コツコツと「力」をつけることです。学力、精神力、体力などをつけるためには、毎日の生活や学習の姿勢をきちんとしていくことが必要です。

●進路先の研究をしっかり行おう

入学したのに「進路変更」や「学校生活不適應」等の理由で、中途退学する人も少なくありません。その理由は、「イメージと違ったから」「校風があわないから」等だったそうです。こうした場合、本人の進路先の研究が不十分だったのではないのでしょうか。このような失敗を避けるためにも、進路選択の目的と進路先の研究をしっかりとしておく必要があります。

●最終的な決定は自分自身で

希望の進路先に進むのは保護者の方でも先生方でもありません。最終的な決定は自分自身でしましょう。ただし、一度しかない経験ですので保護者の方や先生のアドバイスには、しっかり耳を傾けましょう。

学習について

●計画的に

3年の勉強をすると同時に、1・2年の復習もしなければなりません。また、志望校が決まったら、その学校に合わせた勉強も必要な場合があります。やらなければいけないことが多いので、計画をたて、それに沿った勉強をすることが実力をつける近道です。計画通りに進まないときには、随時修正しましょう。長期的な計画に加えて、1カ月・1週間のプランがあると、計画的に進めやすいでしょう。

●効果的な学習方法を

時間がない中で、いかに自分の学力を高めるかが問題です。だらだらと長い時間机に向かっている、人間の集中力は長時間もつものではありません。「集中すること」「繰り返すこと」を基本に、自分に一番適した学習方法を確立することが大切です。

●環境づくり、雰囲気づくり

落ち着いて学習できる環境や雰囲気に身を置くことも大切です。図書館や塾などの自習室を活用するのもよいでしょう。スマホやテレビなど誘惑の多い家庭では、それを断ち切るために家族の協力を得ることも大切です。

●授業が基本

平日5～6時間の授業を有効に使えていますか？黒板の文字を写しているだけ、「あとで覚えればいいや」と後回しにするのは、時間の無駄遣いです。限られた時間で効率よく学習することが大切です。まずは授業中に「理解し、覚えること」を心がけましょう。そうすることで、家庭では別のことに時間が割けるようになります。また、その日に授業で学んだことを復習する習慣をつけましょう。勉強した直後に復習すれば短時間で済むことも、記憶が薄れた頃に勉強し直すにはその何倍もの時間と労力が必要になります。

●テストや問題集の活用法

勉強の成果は何時間やったかではなく、力がついているか、つまり同じような問題が出たときにできるようになっているかどうかです。間違えた問題を赤ペンで直すだけでなく、そこからもう一度知識を整理し、理解し、覚えましょう。そして、改めてやり直してみましょう。たった1つの問題からでも得られる知識は多いはずです。やりっぱなしでは、力はつきません。

●夏休みは1・2年の復習をするチャンス

多くの人が「3年生になったら勉強するぞ」と強い決意でスタートしたことでしょう。日々の授業の復習だけでも大変なのに、その中で1・2年生の復習をすることはもっと大変です。夏休みには、毎日学校にいる7～8時間もの時間が自由に使えます。自分が苦手な部分を徹底的に整理し、1・2年生の復習や入試向けの参考書、問題集にじっくりと取り組み実力をつけることができる最後のチャンスが夏休みです。さらに、実力がつけば2学期の授業が充実してくるはずです。2学期中に、1・2年の復習をする余裕はなく、思うような成果が得られません。夏休みを、有意義に過ごせるかが今後の進路決定を左右します。

生活態度・健康について

●学校での生活を大切に

日常の学校生活にきちんと取り組むことは、あたりまえです。「遅刻・早退・欠席しない」「授業をしっかり受ける」「提出物の期限を守る」「委員や係、清掃、部活動や行事など自分の役割を果たす」

●言葉づかいにも注意

あいさつや礼儀作法は社会に出てからも欠かせません。「ありがとうございます」「すみませんでした」「お願いします」という言葉は普段から使っていなければ、とっさに言えるものではありません。面接には“日常”が現れるものです。

●健康第一

3年生として毎日を乗り切っていくために、まず健康であることが大切です。不摂生な生活を避け、食事や睡眠は規則正しくとるように心がけましょう。体調を崩したときも、焦らずじっくり静養し、無理をせず、まずは完全に治しましょう。また、精神面の健康も大切です。友だちとの交流、家族との交流が精神的な支えになります。

2. ご家庭で取り組んでいただきたいこと

安らぐ雰囲気づくりを

進路決定という初めての体験に多かれ少なかれ子どもは不安を抱いているものです。そうした不安を取り除く意味でも、精神的な安定が不可欠です。日頃から、進路について家族がうちとけて話し合える雰囲気づくりが大切です。

過保護は逆効果

“3年生だから”という特別扱いは不要です。毎日の生活や学習の姿勢こそが大切であり、「勉強さえやっていれば他は何をやっても許される」というものではありません。ご家庭でも、学校と同じように自分の役割をしっかりと果たすようにご指導下さい。過度に気をつかい、特別扱いすることで逆にプレッシャーを感じ、不安や苛立ちの原因になることがあります。明るく和やかな雰囲気の中で本人の自覚を育てることが大切です。

しっかりとした健康管理を

十分な睡眠と食事は、毎日の生活リズムをつくる上でとても大切です。3年生になると夜遅くまで勉強した結果、朝寝坊したり、睡眠不足になったりして体調を崩しがちです。勉強の効果は、勉強時間に比例するのではなく、勉強内容に比例します。無理のない長期的な計画を立て、十分な睡眠時間を確保するようご指導ください。また、食生活も体調面に大きな影響を与えますので、ご配慮下さい。

家庭での十分な話し合いを

十分に話し合って、後悔のない進路決定にしたいものです。進路決定の話し合いの第一歩は、子どもの意思を大切にすることです。もちろん保護者の方のお考えもあると思います。一方的に親の希望や期待を押しつけるのではなく、子どもが納得し、最終的には子どもが自分の意思で進路を決定することが大切です。子どもが進路決定に至るまでの道筋を作っていけるよう、ご家庭での十分な話し合いをお願いします。

進路研究を

学校や塾におまかせというのではなく、子どもと一緒に進路研究を行ってください。高等学校では学校説明会・授業公開・体験入学・運動会・文化祭などが行われています。どちらについても保護者の方も実際に足を運び、自分の目で確かめることで、子どもとは別の観点から学校や職場について知ることができるでしょうし、実際に進学・就職する際の安心にもつながるかと思います。できるだけ情報収集をし、比較検討を始めてください。早い時期に志望校が定まれば、その分だけ準備に時間をかけられます。また、例年、都立校が第一志望でも「万が一のおさえ」として私立校を併願受験する場合がありますので、たとえ都立志望でも、必ず私立高校も数校チェックしておいてください。

3. 令和5年度 第3学年 進路年間計画

	主な学校行事	進路関係	進路についての目標
5月	部活動保護者会(13 木)	第1回進路説明会(13 木)	・自己の力を分析しながら、年間の学習計画を立てる
6月	運動会(3 土) 定期考査 (14 水,22 木,23 金)		・各高校の特色、都立高校の選抜方法をおおまかに理解する
7月	保護者会(8 土) 終業式(20 水) <u>三者面談(21 金-31 月)</u>	<u>進路希望調査①</u> 【進路の方針】 ★実力テスト①(5 水) 夏季休業日 各家庭：学校見学、体験入学、説明会参加、職場見学	・家庭での話し合いを深める ・学習の進み具合を確認、修正する ※2年までの復習を休み中に終わらせる
8月			・見学や体験入学に積極的に参加する ※可能なら部活動見学などもする
9月	始業式(1金) 学校説明会(9土) 中間考査(19火,20水) 修学旅行(23 土-25 月)	★実力テスト②(5火)	・教科別の計画の見直しをする
10月	<u>三者面談(23 月-27 金)</u>	<u>進路希望調査②</u> 【志望校の決定・推薦の確認】 第2回進路説明会(10火) ★実力テスト③(31火)	・都立、私立の選抜方法の説明を通し、進路選択の参考にする
11月	定期考査 (7 火,15 水,16 木) <u>三者面談(29 水-)</u>	受験写真撮影 ●スピーキングテスト(26日) <u>進路希望調査③</u> 【志望校(私立)の最終確認】	・個人面談を繰り返し、志望決定する ・教科のまとめをし、弱点を克服する
12月	<u>三者面談(-5 金)</u> 終業式(25 月)	最終的な受験校(私立)の確定 推薦志願書・誓約書の提出 私立入試相談開始(15金) 私立願書準備、調査書作成願提出 個人面接演習、集団討論演習	・書類の入手方法や作成方法をよく調べ、要項をよく読む ・自分の進路に応じた学習をする ・面接練習や、模擬面接などを行う
1月	始業式(9 火) 学年末考査 3年生 (29 月,30 火)	私立推薦願書・都立推薦願書提出 私立推薦入試 都立推薦入試(25木-26金ごろ) 私立一般入試願書提出	・出願の注意点について知る ・入試、発表、手続きの流れを確認しミスのないように徹底する ・志望企業の試験方法を確認し、面接指導等で備える
2月	学年末考査 1,2年生 (20,28 水,29 木) 卒業遠足(27 火)	都立一次・高専入試願書提出 私立一般入試、発表、手続き 都立高専入試、発表、手続き 都立一次入試(21日ごろ)、発表、手続き	・生活のリズムを整え、心身の健康を保つ ・受験の準備、心構えをする
3月	芙蓉祭 合唱コン(6 水) 展示発表(7 木-9 土) 卒業式(19 火)	都立二次願書受付 都立二次入試(8金ごろ)、発表、手続き 定時制二次願書受付、入試、発表、手続き	・新しい環境に進む心構えをする ・卒業式が飛躍の場となるように練習を重ね、気持ちを集中させる

※進路関係の行事は、実施時期が変更になることがあります。

4. 中学校卒業後の進路先

A. 高等学校

課程について

- 全日制課程 朝から午後までの日中に授業があります。
- 定時制課程 夜間、その他定められた時間帯に授業があります。
- 通信制課程 自宅等で学習し、レポートなどの添削指導を受けながら、定められた日（月2日程度）に登校し、面接指導を受けます。

学年制と単位制

- 学年制 学習する教科・科目が学年ごとに定められており、その学習成果が認められると単位が与えられ、次の学年に進級する制度です。全日制は3年、定時制は4年(一部は3年)を修了すると、卒業が認められます。
- 単位制 学年の区別がなく、3年間(または4年間)の中で必修(必履修)科目の他に自分に適した教科・科目を選択し、その学習成果が認められ、入学から卒業までに決められた単位数を修得すれば卒業できる制度です。

A-1. 都立高校

都立高等学校の学科

* 令和6年度入試の要項はまだ発表されていません。

●普通科

国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報の各教科を中心に学習します。各教科は、更にいくつかの科目に分かれています。学校が定めた教育内容に従い、定められた科目や自分で選択した科目を学習します。大学・短大・専門学校への進学や就職など、幅広い進路に対応します。

●普通科（コース制）

【深川高校(外国語)、片倉高校(造形美術)、松が谷高校(外国語)、小平高校(外国語)】

普通科の一部ですが、生徒の興味・関心や希望に応じられるよう、学習内容の重点化を図り、様々な選択科目を設けています。1年次から語学系、美術系のコースに分かれて学習します。

●総合学科

共通科目から専門科目まで幅広い選択科目の中から、自分の特性や進路希望に合った科目を選択し、系統的、専門的に学習します。自分の生き方や将来の進路を考える「産業社会と人間」を全員が学習し、科目選択に生かします。

●農業に関する学科

農業の各分野で活躍できる技術者の育成を目指して、農業生産物の栽培や飼育を通し、自然に親しみながら専門的な知識やバイオテクノロジーなどの技術を身に付けます。

●工業に関する学科

工業の各分野で活躍できる技術者の育成を目指して、専門的な知識やものづくり技術・ハイテク技術などを身に付けます。

●工業に関する学科（デュアルシステム科）

企業でものづくりの長期就業訓練を授業として受け、実践的な技術・技能を身に付けます。企業と生徒の合意により、卒業後、就業訓練先の企業に就職することもできます。

●科学技術科

【科学技術高校、多摩科学技術高校】

科学や技術について幅広く学び、卒業後、理系の大学等において専門性を高めるための基礎力を身に付けます。

●ビジネス科・商業科

経理、情報処理などの商業の分野や国際化に対応する分野で活躍できる人材の育成を目指して、専門的な知識や技術を身に付けます。

●ビジネスコミュニケーション科

【大田桜台高校、千早高校】

激変する社会環境の中で、自立することのできる人材の育成を目指します。英語や実践的なビジネス科目を学び、社会科学系及び人文科学系大学への進学を目指します。

●情報に関する学科

【新宿山吹高校】

高度情報通信社会の諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てるため、情報の各分野に関する知識と技術を習得します。

●産業科

【橘高校、八王子桑志高校】

生産・流通・消費の各過程の関連性を学び、起業家精神を育成します。

●海洋国際科

【大島海洋国際高校】

海洋について様々な視点から学び、海洋課題に対応できる人材を育成します。

●家庭に関する学科

【赤羽北桜高校、農業高校、瑞穂農芸高校、忍岡高校】

家庭生活に関する専門科目の学習を行うことにより、衣食住、保育、看護や介護などの知識や技術を身に付けます。

●福祉に関する学科

【赤羽北桜高校、野津田高校】

各種福祉施設、病院、保育園などで実習や体験学習を行いながら人間尊重の精神をしっかりと身に付け、社会の援助者として行動できる人材を育成します。

●理数に関する学科

【立川高校】

理数系の幅広い素養と情報活用能力等を高いレベルで併せ持ち、新しい価値（イノベーション）を生み出すことのできる人材を育成します。

●芸術に関する学科

【総合芸術高校に、「音楽科」「美術科」「舞台表現科」を設置】

音楽、美術、舞台表現に関する専門科目の学習を行うことにより、感性と表現力を身に付け、将来にわたって芸術の発展に寄与する人物の育成を目指します。

●体育に関する学科

【駒場高校、野津田高校】

体育・スポーツに関する専門科目の学習を行うことにより、保健体育に関する知識・技能を身に付けます。共通科目の他に、学校によりバレーボール、バスケットボール、サッカー、体操、陸上、水泳、柔道、剣道などの専攻に分かれた専門の学習を行います。

●国際に関する学科

【国際高校に、「国際学科」「国際バカロレアコース」を設置】

国際関係、日本の伝統文化、異文化理解などに関する学習や、自分が設定した課題を深く学ぶ課題研究型の学習を行います。また、外国語（英語など）の高度な運用能力を身に付けることを目指します。こうした学習を通して、豊かな国際感覚を身に付け、積極的に国際社会で行動できる人材を育成します。

●併合科

【全日制では、大島高校(農林・家政)、三宅高校(農業・家政)、八丈高校(園芸・家政)】

【定時制では、瑞穂農芸高校(普通・農業)】

二つの学科を一つの学級に編制している学校もあります。これを、併合科としています。

多様なタイプの都立高校

●チャレンジスクール

【桐ヶ丘高校、世田谷泉高校、大江戸高校、六本木高校、稔ヶ丘高校、小台橋高校】

小・中学校で不登校の経験があったり、高校で中途退学を経験したりして、これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が、自分の目標を見つけ、それに向かってチャレンジする学校。自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて各時間帯（午前・午後・夜間の三部）を選んで入学する昼夜間の定時制・総合学科・単位制の高校です。4年間かけて学ぶことを基本としますが、他部の科目の履修により、3年間での卒業も可能です。

●エンカレッジスクール

【足立東高校、秋留台高校、練馬工業高校、蒲田高校、東村山高校、中野工業高校】

小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援しながら、勉強や学校行事・部活動などを通して学校生活を充実させる全日制の学校です。1年次には30分授業を実施し、午前中は座学、午後は体験学習および選択授業が中心となるように時間割編成を工夫し、生徒の集中力を維持し、向上させます。また、少人数制・習熟度別授業によるきめ細かく分かる授業の実施や、豊富な体験学習や選択授業が特色です。

●昼夜間定時制高校

【一橋高校、浅草高校、荻窪高校、八王子拓真高校、新宿山吹高校、砂川高校】

自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて、午前・午後・夜間の三つの部の中から選んで入学する定時制・単位制・三部制の普通科高校です。（新宿山吹高校は四部制で、情報科も設置）基礎・基本を重視し、習熟度別授業や少人数授業など、多様な学習形態を取り入れています。1日4時限ずつ4年間かけて学ぶことが基本ですが、他の部と合わせて1日に6時限の授業を受けられたため、3年で卒業することもできます。

A-2. 私立高校

都立高校同様、いろいろな特色をもち、各校で建学の精神に基づいた独自の教育課程に沿った教育活動が行われているのが大きな特徴です。また、男女共学だけではなく、男子校や女子校があったり、大学の付属高校があったりと、選択肢の幅がとても広いことも特徴の一つです。

A-3. 国立高校

国立大学教育学部の付属校として設立されています。学校数も少なく、かなり高い倍率となります。

B. その他の学校

B-1. 高等専門学校（高専）

各分野の専門技術者を育成する学校です。修業年数は5年で、1年生で共通の授業を受けて、2年生～5年生でコースを選択します。専門科目の内容については、工業高校より高くなっています。さらに卒業後も勉強を続けたい場合は専攻科に進むか、4年生大学の3年生（一部大学では2年生）に編入も可能です。

※都立産業技術高等専門学校では、荒川キャンパスか品川キャンパスを選択できます。

都立だけではなく、国立・私立もあります。

B-2. 高等専修学校・各種学校

専門学校と同じ区分になり、1～3年間の修業年数の間に、さまざまな分野における専門技術や資格や受験資格を取得できる学校です。（電気・自動車・塗装・調理・美容・簿記会計・家政・服飾など）高等専修学校の中でも、修業年限が3年間の学校は大学入学資格付与校といって、4年制大学や短大、専門学校への受験が可能となる場合があります。

B-3. 通信制補習校（サポート校）

その学校に入学と同時に通信制高校に入学し、高校卒業資格取得まで3年間で、独自のカリキュラムでバックアップしてくれる学校です。ただし、学費面ではサポート校と通信制高校の両方の学費が必要です。

B-4. 特別支援学校高等部

特別な支援を必要とする生徒の自立や社会参加に向けた主体的な支援をする学校です。

B-5. 職業能力開発センター

就職に向けて、職業に必要な知識・技能を習得するために訓練する学校です。

近い所では、「都立城東職業能力開発センター江戸川校」があります。

※「B. その他の学校」に関しては、受験の仕組みや日程、受験資格や卒業後の取得資格など特殊な学校です。進学の希望がある場合は、各家庭にて資料を取り寄せ、情報を確認してください。また、早めに担任に受験の相談（第1回の三者面談にて）を行うようにしてください。

C. 就職

中学校卒業後、就職を考えている人は、進学希望者と違って、一足先に社会人になります。自分がどの方面でのびる素質を持っているか把握し、十分に将来の見通しを持って進路を考えなければなりません。そのためには、自分自身をよく知り（自己理解）、職業の内容もよく知った（職業理解）うえで、職業を選択し、就職することが望まれます。

ここ数年は、中学校卒業後の求人は少なく、進学するよりも狭き門です。

※知り合いの人との口約束で就職し、あとになって労働条件や給料のこともめてしまうこともあります。知り合いの人に採用してもらう場合でも、学校に相談し、ハローワークに間に入ってもらうことが大切です。

●就職へのコース

1. 一般的な就職へのコース

入社と同時に仕事につき、働きながら徐々に仕事を覚え、やがて一人前になります。

2. 就職し、会社内の養成機関で学ぶコース

会社内に訓練機関を持つ事業所で、仕事をしながら、一定期間訓練生として技術を習得し、一人前の職業人になっていきます。

●採用の流れ

1. 求人情報の入手

近隣ではハローワーク木場を通して各中学校に配布される「中学校求人一覧」の中から希望の事業所を見つける。

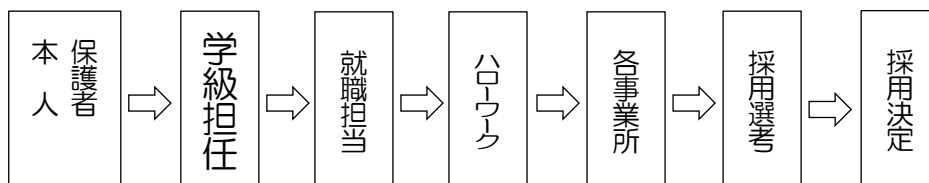
2. 応募書類の提出（12月中旬までに）

職業相談票（職業適性検査の結果を記入する）等

3. 採用選考開始（1月10日頃より）

選考は主に面接だが、適性診断テストや簡単な筆記試験を行うところもある。

4. 採用内定者の通知



5. 受験に関する基礎知識

●内申点

中学校の成績（評定）を内申といい、調査書に記載されます。9教科の評定をそのまま足したもの（45点満点）を**素内申**と言います。→推薦入試では、主に素内申を使います。

都立入試用に以下の計算式にあてはめて計算したもの(65点満点)を**換算内申**と言います。→都立高校の一般入試で使われます。（※芸術系等一部の学校は、75点満点）

$$\begin{aligned} & (\text{国}5 + \text{数}5 + \text{英}5 + \text{社}5 + \text{理}5) \\ & + (\text{音}5 + \text{美}5 + \text{体}5 + \text{技家}5) \times 2 = 65 \text{点満点} \end{aligned}$$

【内申点（調査書点）を求めてみよう】

	国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	保体	技家
2年 3学期									
合計	5科合計 (25点満点)					4科合計 (20点満点) × 2			
						× 2			
	↓					↓			
	+								

⇒ 内申点 点／65点満点

都立一般入試の場合は、当日の学力調査[700点満点]と内申点（調査書点）[300点満点]とESAT-J[20点満点]の合計[1020点満点]で、点数が高い生徒から合格することができます。

※学力調査[600点満点]と内申点[400点満点]になることもあります。

【都立用計算練習】

実力テストの結果	上記で計算した換算内申	英語スピーキングテスト
／500 × 700	／65 × 300	／20
+		

⇒ 合計 点／1020点満点 ※端数切捨

●偏差値

平均点を中心の50としたときに、全体から見てどの位置にいるかという目安のことで、25から75までの間に99%が入ります。数字が大きくなるほど高いということになります。学校で行う定期考査や実力テストなどではこの偏差値は出てきません。これは偏差値に偏った進学指導を行わないようにという全国的な流れです。しかし、全都の中学生の中で自分がどの位にいるかという目安になります。模試（会場テスト）などを経験し、資料として自分の実力を把握するのもよいでしょう。

●都立推薦

推薦入試を受けるためには、本校の期待する生徒の姿に準ずることと葛西第二中学校の推薦基準の両方をクリアすることが必要です。推薦を希望しても、葛西第二中学校の校長の推薦が受けられなければ推薦受検はできません。学力だけではなく、学校生活がきちんと送れている（出欠席・遅刻、生活習慣、授業態度、生活態度、先生の指導に従うなど）ことが条件です。

- | |
|----------------------------|
| 「入試までの流れ」 |
| ①本人・保護者の推薦希望（第一志望であることが前提） |
| ②校内推薦基準をクリア |
| ③校長の推薦を受ける |
| ④調査書などの作成（担任） |
| ⑤志願書・自己PRカードの作成（本人） |
| ⑥入試 |

●私立推薦

都立の推薦同様、受験校からの推薦基準と葛西第二中学校の推薦基準の両方をクリアすることが必須です。私立高校では、推薦入試の出願資格として学校ごとに成績（内申）の基準を設けているので、担任とよく相談しておく必要があります。

- | |
|----------------------------|
| 「入試までの流れ」 |
| ①本人・保護者の推薦希望（第一志望であることが前提） |
| ②校内推薦基準をクリア |
| ③校長の推薦を受ける |
| ④各校の推薦基準をクリア |
| ⑤調査書などの作成（担任） |
| ⑥入試 |

●私立併願優遇

第一志望の学校に不合格だった際にその学校に進学することを約束することで、一般入試より優遇される制度です。第一志望に合格できなかった場合は、原則として併願優遇を受けた高校に入学することになります。高校ごとに内申の基準を定めていて、必ずこれをクリアしていなければなりません。

- | |
|----------------|
| 「入試までの流れ」 |
| ①本人・保護者の併願優遇希望 |
| ②校内の基準をクリア |
| ③校長の了承を受ける |
| ④各校の併願優遇基準をクリア |
| ⑤調査書など作成（担任） |
| ⑥入試 |

●都立一般入試・私立一般入試

推薦や優遇措置を受けずに受検・受験すること。都立では一次（前期）と二次（後期）があります。私立では日程を何日か設けている学校もあるので、何校か受験することは可能です。ただし、入学手続きの締め切りが早い学校もあるので、志望順位によっては注意が必要です。

6. 推薦希望者にのぞまれること

推薦制度では、都立高校の場合、高校ごとに「本校の期待する生徒の姿」という基準があります。

また、私立高校の場合、内申の細かい基準（評定）が示されます。都立、私立を通じて、主に次のことが求められます。

(1)学習面…学力を向上させようと努力していること。

- ・その学校で学ぼうとする意志がはっきりしている。
- ・学力がその学校の推薦基準に達している。
- ・毎時間の授業にまじめに取り組んでいる。
- ・課題や宿題にまじめに取り組んでいる。

(2)生活面…基本的な生活習慣が身についていること。

- ・出席状況（早退・遅刻・欠席）が良好。
- ・学校のルールにそった生活ができる。（頭髪、服装、持ち物、チャイム着席、提出物など）
- ・日常生活を向上させようと努力している。
- ・正しい判断や行動ができる。
- ・集団の一員として、自覚をもって生活している。

(3)その他の活動面…積極的に集団に奉仕する気持ちを持ち、責任感があること。

- ・生徒会、委員会、部活動、各学級の諸活動にまじめに取り組んでいる。
- ・集団をより良くするために、温かい配慮ができる。

※上記項目は、特別なものではなく、学校生活を送る上で基本的かつ重要なことばかりです。したがって、推薦入試を受けるためにそれらしく振る舞うのではなく、受ける受けないにかかわらず、自分を成長させるために一つ一つ取り組んでほしいと考えています。

【参考】「本校の期待する生徒の姿」（抜粋）

江戸川	本校では、「進学指導推進校」「Sport-Science Promotion Club」の指定を受け、進学指導及び部活動に重点を置き、充実した教育活動を展開しています。したがって、努力を惜しまず高い志をもつ、以下の項目に該当する生徒を希望します。 1 本校の特色をよく理解し、勉学、生徒会活動、部活動に積極的に取り組む生徒 2 日々の学習活動において努力を重ね、四年制大学への進学に向け、高い目標を掲げて努力する生徒 3 生徒会役員や委員会のリーダーとなり、自らすすんで生徒会活動や学校行事に積極的に取り組む生徒 4 中学校の部活動において優れた技能をもち、入学してから継続して部活動に励む意志の強い生徒 5 社会や学校の決まりを守ることができる規範意識の高い生徒 ※ 特に推薦選抜においては、生徒会活動や委員会活動、部活動において優れた取り組みなどがあることが望ましい。
紅葉川	これからの時代をたくましく生き抜いていくためには、「国際社会に通用する確かな学力」が必要です。本校は、全日制普通科の使命として、生徒に確かな学力を身に付けさせ、大学に一般受験で合格させることができるよう、教職員が丸となって指導を行います。この方針に共鳴する生徒の入学を期待します。 1 大学進学への目的意識をしっかりもち、高い志望を掲げて努力する生徒 2 国語・数学・英語・社会・理科の基礎学力があり、更に深く学ぼうとする生徒 3 学校生活の規律を守り、広く他人への配慮ができる生徒 4 部活動、学校行事、ボランティア活動等に積極的に取り組む生徒 ※ 特に推薦選抜においては、本校への志望動機が明確であり、入学後に勉学と部活動に意欲的に取り組む生徒が望ましい。
葛西工業	本校では、機械科、電子科、建築科、デュアルシステム科のそれぞれの学習を通して、創造的なものづくりができるスペシャリスト（専門家）の育成を目指します。 1 機械、電子、建築の分野に興味・関心をもち、ものづくりの技術・技能を身に付けたい生徒 2 身に付けた技術・技能を将来に生かしたい生徒 3 資格取得・検定試験にチャレンジする生徒 4 積極的に企業での就業体験に参加する生徒 5 部活動や生徒会活動を3年間続ける意志があり、学校行事に積極的に取り組む意欲のある生徒 6 良好な人間関係をつくることのできる生徒 7 基本的な生活習慣が良好で、学校や社会のルールを守ることができる生徒

本校の推薦受験基準

1. 推薦制度の利用について

都立、私立を問わず多くの高校が「推薦入試」を実施しています。推薦入試は通常の一般入試より合格発表が1カ月ほど早く、主として調査書と面接または集団討論によって合否が決定されます。

(学科によっては実技試験や小論文を伴うこともあります。)

この制度を利用して受験するためには、葛西第二中学校が定める基準と、志望校が定める基準をともに満たしていなくてはなりません。さらに職員会議において全教職員からの承認を受け、最終的に学校長の判断で推薦受験できるかどうか決定されます。度重なる遅刻や校則違反などが無く、クラスメイトや教職員と協調し、健全な学校生活を送っていることが大前提となります。志望校が示す成績の基準を満たしているだけでは推薦受験は受けられません。

2. 推薦基準について

以下に示す具体的な基準全て、もしくは(2)及び(3)に該当していることが推薦の条件です。また、併願優遇、特別推薦についてもこの基準に準じます。

- (1) 人物・学力ともに優れている。
- (2) 志望の動機が明確であり、適性がある。
- (3) 生徒の日常的な活動内容が、本校の推薦生徒として適している。
 - ①志望校の推薦基準を満たしている生徒。
 - ②生活面において、基本的な生活習慣が身に付き、きまりを守り、自己や全体のために努めた生徒。
 - * 服装、髪型、言葉遣いなどで度重なる注意・指導を受けたにもかかわらず、改善がみられない生徒は推薦できません。
 - * 当番活動などがきちんとできない生徒も推薦できません。
 - ③学習面において常に努力している生徒。
 - * チャイム着席が守れない、授業態度が悪く指導を受けたにもかかわらず改善されていない、宿題などの未提出物が多くある生徒は推薦を受けられません。
 - ④基本的な生活習慣が身についており欠席、遅刻、早退が少ない生徒。
 - * 怠学などを含む欠席、遅刻、早退に対して指導を受けたにもかかわらず改善が見られない生徒は推薦を受けられません。
 - ⑤法に触れる行為(万引き、飲酒、喫煙、バイク、傷害など)で指導を受けたことのない生徒。
 - * 過去に問題行動があっても十分反省し、現在は努力していると認められる生徒については本人の将来性に期待し、推薦した方が教育的に効果ありと判断された場合はその限りではありません。

3. 推薦合格後について

推薦受験で合格したにもかかわらず、上記2の「推薦基準」にはずれる様な行為、行動があった場合は、推薦合格を取り消される場合もあります。最後まで推薦合格者として自覚を持ち、学校生活を送ってください。

8. 昨年度の葛西第二中学校進学状況

都立高校	全日制	73名	
	定時制	1名	
	通信制	0名	
私立高校	都内	全日制	44名
		通信制	2名
	都外	全日制	0名
		通信制	0名
国立高校	0名		
その他	4名		
就職	0名		

9. 昨年度の都立・私立高等学校入試の状況

◆都立 ここ数年での都立離れ

全日制都立高校・全体の募集人員 29,319 人に対して、39,607 人が受検しました。全体の実質倍率は 1.35 倍でした。平成 31 年度以降、1.40 倍を下回り続けています。その背景には、

①私立高校授業料無償化

②学力に不安のある生徒が私立推薦へシフトしたこと

③オンライン授業が注目され私立通信制を志望した生徒が増えたこと が考えられます。

※普通科 1.39 倍 専門学科 1.16 倍 総合学科 1.22 倍

*受検倍率＝受検者数÷募集定員

*実質倍率＝受検者数÷合格者数

◆都立 一般入試は二極化 ～人気校はさらに高倍率～

R02 年度	R03 年度	R04 年度	R05 年度	
学校名	学校名	学校名	学校名	不合格者
青 山	三 田	新 宿	新 宿	286
産業技術高専	青 山	青 山	豊 島	219
新 宿	上 野	北 園	小 岩	218
戸 山	城 東	上 野	武蔵丘	212
上 野	戸 山	豊多摩	鷺 宮	210
江戸川	新 宿	戸 山	江 北	209
三 田	小 岩	神 代	日比谷	201
城 東	駒 場	文 京	昭 和	201
100名以上の不合格者がでた校数				
46校	35校	49校	44校	

◆都立 男女別定員制の段階的措置

昨年度の入試より、男女枠緩和措置が全校で導入されました。この措置は、男女別の定員のそれぞれ9割までを男女別で合格を決定し、残りの1割を男女合同で合格を決定する制度です。これにより、昨年度は男子の合格数が定員より少なくなりました。今後は男女合同の定員になることが予定されています。今年度は、6月に詳細が発表される予定です。

◆都立 推薦への応募は減少

推薦に基づく選抜では、募集人員の 9,372 人に対して、23,176 人が受検しました。全日制全体の実質倍率は 2.47 倍でした。平成 7 年度以降、最低の倍率となりました。その背景には、

①私立高校授業料無償化

②推薦定員数が増えていること が考えられます。

◇私立 通信制への志望者増加

コロナ禍で学習の多様性・授業の在り方が変わり、オンライン授業が充実している私立の通信制への志望者が増えているようです。

◇私立 大学進学を視野にいれて

大学付属校や、進学指導に特化したコースがある学校への受験者が増加しています。その背景には、

①大学入試制度の変更

②コロナ禍で大学入試に対する不安 が考えられます。

しかし、このような学校は併願優遇の制度がないこともあり、例年多くの不合格者がでます。また、推薦入試でもテストを実施するため、不合格者がでます。

◇私立 一般入試でフリー受験の厳しさ

一部の学校を除いて、ほとんどの学校で優遇制度を取り入れています。また、ほとんどの受験生がその制度を利用して入試に挑んでいます。そのため、優遇制度を利用しない受験（フリー受験）で合格することは大変厳しくなっています。受験する可能性がある学校の説明会に必ず参加して、優遇制度を確認することが重要です。